（２）講　　評

○委員長　よろしいですか。議題で言うと、「講評」というところになりますが、そこに移らせていただきます。

まず最初に、研究課題①の測地観測に基づく地殻活動イベントの検知能力に関する研究、研究自体としては成果が上がっており、大変結構なことだということが委員会としての評価です。将来的にはもう少し精度が上がるといいますか、今20㎞四方で検知できるのはこの程度ということだけれども、それをさらに精度を高めるような形にするにはどうしたらいいかという形で研究を発展させていただきたいということです。

②のプレート境界の固着状態及びその変化の推定に関する研究、これは高い成果を上げているということで、分科会の評価では２番ということになっていました。おおむねということになりましたが、この委員会としては十分目標を達成できたと考えていいのではないかということですので、そういうふうな方向に変えさせていただきます。ただし、先ほどのところでも出ましたが、解析のシステム化といいますか、機械化、個人の資質に依拠するのではなくて、組織としてちゃんと解析できるような、そういうシステム化が必要であろうと考えますので、そのあたりを検討していただきたいということ。それから、３・11以降のデータに基づいて、これを実際に動かしてみるということで、現実の日本の状態がどうなっているかということを早目に出していったらいいだろうという意見が出されました。

③の航空レーザーデータを用いた土地の脆弱性に関する新たな土地被覆分類の研究、これは、どちらかというと、今まで地質、地形に偏っていた土地の脆弱性を植物といいますか、樹高、あるいは根系の影響を与えることによって、より精度高く推定することができるようになったという意味では大変評価できるということですが、この脆弱性という言葉を含めて、もう少し他分野とも共通性といいますか、他分野の人が理解のできるような言葉遣いを検討してほしいということ。もう１つは、地形・地質がいろいろ違うようなところでも同じように出てくるのかという事例を多くしていかないと、普遍性といいますか、適用性の度合いがわからないのではないかという意味では、むしろ日本のあちこちでこの例を検討してほしいという研究の展開を希望するということになっています。

それから、④の公共的屋内空間における三次元ＧＩＳデータの基本的仕様と効率的整備方法の開発、これも設計図等を用いた新たな三次元空間のデータを取得するという方法論

上は大変新しい試みで、成果もそれなりに上がっているということで高く評価したいということです。ただ、このたぐいは民間のほうでも若干進んでいるので、民間との連携といいますか、あるいは統一性みたいなものを一層進めてほしいということ。それから、地理院としてこの種のデータを作成する目的といいますか、防災ばかりではなくて、日常のサービスに使えるような、そういうようなものを含めて目的をもう少し明確化させるような方向で、基礎データとしての整備の必要性をちゃんと説得するような形に持っていったほうがいいのではないかという意見が出ました。

全体としては、終了する４つの研究は高い成果を上げているということですが、むしろそれぞれが発展させるべき課題を持っているので、発展的にむしろ検討してほしいといいますか、新しい課題を考えて研究を続けてほしいという意見です。

以上が私からの講評です。ほかの委員の方から何か追加がありましたら、よろしいですか。では、そういうことでこの「講評」のところは終わらせていただきます。